

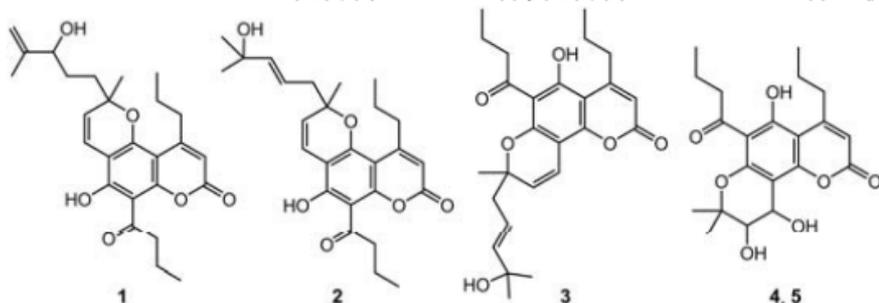
30P1-am006

Mammea siamensis の成分研究 9

○神前 祥子¹, 福山 陽子¹, 倭 千裕¹, 竹仲 由希子¹, 棚橋 孝雄¹, 秋田 徹²
(¹神戸薬大, ²日本新薬)

【目的】 オトギリソウ科 *Mammea siamensis* はタイなど湿気の多い熱帯地域に広く分布する常緑性の高木で, 伝統生薬として花は心臓強壮に用いられている. 本植物に含まれるクマリン類が細胞毒性や抗がん活性を示すという報告があることから, ¹⁾当研究室においても *M. siamensis* の成分検索を行い, 数多くのクマリン類を単離・構造決定してきた. ²⁾今回さらに検索を行い, 新規クマリン類を単離・構造決定したので報告する.

【方法】 タイの生薬店にて購入した *M. siamensis* の花部のメタノール抽出物より得られた *n*-BuOH 可溶部を各種クロマトグラフィーに付し, 新規化合物 **1**–**5** を単離した. 化合物 **1**–**5** は 1D 及び 2D NMR などの各種スペクトルデータの詳細な解析により図のような構造と決定した. また化合物 **4** と **5** は ¹H-NMR スペクトルのカップリングコンスタントより化合物 **4** をシス体, 化合物 **5** をトランス体と決定した.



1) Vichai Reutrakul *et al.*, *Planta Med.*, **69**, 1048 (2003).

2) 神前ら, 日本生薬学会第 58 会年會講演要旨集 p186 (2011).